

2019年度 社会福祉法人 高崎福祉倶楽部 事業報告

1. 総括

今年度は、基本理念の下、新たな機器や ICT 等の導入による業務の負担軽減、互いに成長できる職場環境を目指しました。

前半を準備期間とし、後半 3～4ヶ月の移行期間を設け導入し、基礎固めは達成できました。活用による業務の負担軽減は、まだまだですが、互いに成長できる環境は整いつつあります。

また、地域貢献活動として実施している健康体操教室は、地域の方々の閉じこもり防止やロコモティブシンドローム予防に貢献できている。今後も地域の社会的課題の解決や地域の方々との協働の機会を提供できるよう努めます。

しかし、前橋拠点の稼働と外国人技能実習生の受入れは今後の課題であり、新型コロナウイルスの感染拡大防止にも引き続き注力していくことが求められています。

2. 事業実施報告

① 介護サービスの質の維持と人材育成

- ・ 情報の共有化と業務内容の分業化によるチームケアの醸成を掲げたが基礎固めに終わった、更なる活用を進めたい。
- ・ 資格取得支援と内部研修の継続により資格取得に繋がった。
- ・ 有給休暇の計画付与（年 10 日以上の場合 5 日）の周知に務め、達成に繋がった。
- ・ 新卒採用 3 名、年齢や資格にとらわれない多様な人材の活用を推進し、中途採用 5 名。

② 地域貢献等

- ・ 在宅支援事業の機能強化として通所事業所定員増員（15→18）、職員も増員し、利用者獲得に務めた。
- ・ 地域活動（介護予防体操）の継続に注力し、群馬県ふくし総合相談支援事業への参加は見送った。
- ・ 情報発信においては、さらに見やすいものを目指しホームページをリニューアルした。

3. 決算報告（借入金償還を含む） ※別紙参照

4. 会議実績

- | | | |
|-------------------------|-------|----------|
| ① サービス責任者定例会議 | 月 1 回 | 各事業所の責任者 |
| ② 安全衛生委員会・危機管理委員会（①と同日） | 月 1 回 | 各事業所の責任者 |
| ③ 給食会議 | 月 1 回 | 各事業所の責任者 |

5. 研修実施

- | | |
|-----------------------------------|-------|
| ① 職員研修 | 月 1 回 |
| ② 看取り・喀痰吸引の研修 | 年 1 回 |
| ③ 感染予防、事故、身体拘束防止に関する研修 | 年 4 回 |
| ④ 外部研修への参加（今期は中止等もあり施設系職員の参加は少ない） | |

6. 改修、備品購入

- ① 特養・通所・事務所・厨房等の空調設備・通信機器入替工事は予定通り実施できた。
特養の空調設備入替については、省エネ化を達成、補助金給付となった。
- ② 特養のリフト浴槽の備品購入と改修工事についても予定通り実施できた。

7. 職員採用実績

- ① 直接、法人のホームページを見ての応募、次いでハローワークとなった。
- ② 外国人技能実習生についてはフィリピンからを予定し、2020 年 4 月に面接、9 月入国というスケジュールを進めていたが、

新型コロナウイルス感染拡大の影響により未定。

8. 介護報酬改定への対応

- ① 消費税導入（ 2×10.27 円）、食費（12 円）、居住費（32 円）の影響はない。
- ② 特定処遇改善加算を導入、今期は年度末一時払いで対応した。

2019年度 特別養護老人ホーム悠ゆう 事業報告

介護ニーズの多様化と重度化に対応した介護サービスの提供と高齢者の生活に配慮した住環境の整備に努める。

◇特養・短期入所>

< 目標 >

人材育成と情報の共有化による連携

< 実施計画 >

1. 役割分担と連携によるチームケアの構築
 - ①業務内容の見える化（ICTの導入等）と具体的な役割
 - ②職員一人ひとりの社会人としての基礎的スキルの向上
2. 委員会活動の活性化によるリスクマネジメントの強化
3. 経営理念、キャリアパスの浸透と定着
4. 認知症の理解をはかる

< 実施報告 >

- ・キャリアパスの活用により新入社員3名の育成。職員の定着が図れた。
- ・ICTの導入により、業務記録の効率化が図かれ、多職種での情報の共有、課題分析やケアプランの内容にも反映できるようになった。
今後は、業務の分業を精査し、入居者の生活に配慮した質の高いサービスの提供に取り組んで行く。
- ・リスクマネジメント強化に努めた結果、事故発生件数が78件から52件と3割減となったが転倒事故が多かった。

機能訓練

< 目標 >

生活リハビリの充実

< 実施計画 >

1. 残存機能維持を目的としたレクリエーションの実施
2. ご利用者の生活歴を踏まえた住環境の整備と日常生活の充実に図る
3. 口腔機能向上のための口腔体操を実施（誤嚥・インフルエンザ予防）

< 実施報告 >

- ・機能訓練においては、残存機能維持を目的としたレクリエーションの実施ができず来期の課題である。

給食

< 目標 >

食べる楽しみと経口摂取の維持

< 実施計画 >

1. 食欲を刺激する献立、食事形態の工夫による経口摂取の維持に努める
 - ①季節感や生活感のある食事の提供
2. 栄養ケア計画に基づき経口摂取機能の適切な評価
 - ①多職種による評価を基にした嚥下調整食の提供

< 実施報告 >

多職種連携、評価をしながら食の楽しみと経口維持に努めた。ケーキバイキング等の提供は、高評価であった。

健康管理

< 目標 >

健康の維持と感染症の予防

< 実施計画 >

1. 健康管理と観察のポイント、疾病と服薬（皮膚の保護）についての周知
2. 看取り、褥瘡予防、感染等の施設内研修の実施
3. 事故の予防と事故発生時の対応の周知
4. 職員の健康診断を実施（腰椎予防対策を含む）

< 実施報告 >

健康管理、感染予防においては、今までも同様な感染予防対策をしていた為入居稼働率への影響はなく目標稼働率 98%をクリアできた。

2019年度 デイサービスセンター 青葉 事業報告

< 目標 >

ご利用者の状態の維持向上を図り、地域での暮らしが維持できるよう支援する。
地域の方が気軽に立ち寄れる場所を提供する。

< 実施計画 >

1. 事業所内の軽費老人ホームと短期入所事業、居宅事業者やあんしんセンターと連携し定員の増員と利用者の確保をはかる。
2. 地域における認知度アップを目指し積極的な情報発信をする。
3. 地域活動「歌って笑って健康体操」の継続により地域住民との交流をはかる。
4. 手作り品の展示(販売)等による生きがいづくり。

< 実施報告 >

1. 居宅介護支援事業所と連携し新規利用者 8 名獲得。利用者延人数は前年に比べ 9 % 増。1 日の定員を 18 名に増員したが 17 名止まりであった。今後も連携を図り利用者確保に努める。
2. 月に一度、新聞(青葉便り)を発行しご家族や地域活動参加者、大類中学校様等を訪問し情報発信に努めた。
3. 地域活動を予定通り月 2 回開催し地域の方々と交流を図った(3 月は新型コロナウイルス感染防止のため中止)。今年度の皆勤賞 6 名。
4. 手作り品の展示や販売を正面玄関にて行った。手作り品は、根付け・ゴム通し・耳かき・アクリルたわし・レッグウォーマーなど趣味特技を生かしたもので、年間を通して売れ行きのよいものはアクリルたわしでした。

○行事は、年間レクリエーション計画通り実施できた。

○リスクマネジメント

- ・事故報告 7 件。主に転倒。
- ・ヒヤリハット 14 件。

内訳は、職員の見ていないところでの立ち上がり・歩行が 5 件、補聴器に関するもの 3 件、縫い針(工作で使用)の取り扱い 2 件などの事故につながるおそれのあるもの。

事故・ヒヤリハット報告書の検討、対策の情報共有により再発防止に努めた。またご家族様への連絡、報告を行い、関係部署との連携を図ったため、大事にはいतरなかつた。

2019 年度 ケアハウス「グリーングラス」事業報告

< 目標 >

ご利用者相互の親睦をはかり、互いに助け合いながら楽しく生活できるよう支援します。

参観しやすい行事を企画し、意欲や体力の低下防止に努めます。

< 実施計画 >

1. ご利用者の心身状況の変化に迅速かつ的確に対応するため、家族やケアマネとの連絡、情報共有を密に行う。
2. 健康チェック（血圧、脈拍、体重測定）の月 1 回以上の実施と年 1 回以上の健康診断を促す。
3. 買物支援（近隣の量販店、ドラッグストア、出張販売等）
4. 介護予防の体操や頭の体操による健康寿命の増進を図る。

< 事業報告 >

1. 日々、変化する心身の状況を見守り、必要な支援を提供できるよう心掛けた。
2. 健康チェックは計画通り実施。心配事の解消に繋がるよう努めた。
3. 要望に応じた買い物支援を実施した。また、パントリーにて売店・カフェを週 1 回オープンした。
4. 1 年の稼働率 94%を達成した。継続して各部署と連携を図り待機者の確保に努める。

< 入居者の状況 >

現在入所者 18 名（男：3 名 女：15 名） 平均年齢 83.22 歳

外部サービス利用者：15 名 入院者：0 名（3 月現在）

令和 2 年 3 月 31 日現在

2019 年度 ケアプランセンター悠ゆう 事業報告

《目標》

1. ご利用者の立場に立ち分りやすい説明を心がけます。
2. 医療機関や他事業所との連携を強化し信頼を得ることで新規利用に繋がります。

《実施計画》

1. 近隣の病院、薬局、高齢者あんしんセンターや地域等の社会資源を積極的に活用した新規利用者の獲得。
2. 群馬県ふくし総合支援事業による相談窓口を開設し地域の方々の暮らしに寄与する。

《実施報告》

1. 地域等の社会資源を活用し信頼を得ることで、近隣の病院・薬局・高齢者あんしんセンターからの紹介による新規利用者増により、事業対象者 12 名、予防 37 名、介護 36 名となった。
2. 当事業所のイベントに参加した地域の方々と交流を通し、情報や不足している社会資源を高齢者あんしんセンターに提案させていただいた。
3. 特定事業所集中減算に関しては、80%を上回ることなく各事業所と連携を確保することができた。
4. 群馬県ふくし総合支援事業は今年度未実施。イベント等により地域の方々の困り事に対応した。

2019 年度悠ゆうみなみちよう事業報告

2019 年度事業報告を下記の通り報告いたします。

利用状況

年間平均利用率は、特養 75.6%、短期入所 5.6%でした。特養の結果については、人員体制整わず、年度内に一度も 3 階特養ユニットを稼働できなかったことと稼働ユニットにおいて、退所に伴う新規入所者の補充ができなかったことが低迷の要因です。短期入所でも、人員体制整わず 4 月より併設型短期入所から空床利用の短期入所に変更していますが、実質休止状態となっています。

職員状況

2019 年度（2020 年 2 月 20 日現在）の正規介護職員採用人数は、常勤職員 0 名（内、夜勤可 0 名）、非常勤職員 3 名（内、夜勤専従 0 名）計 3 名、退職者人数は、常勤職員 4 名（内、夜勤可 4 名）、非常勤職員 1 名（内、夜勤可 0 名）、計 5 名。介護派遣職員入職人数は、11 名（内、夜勤専従 2 名、夜勤可 0 名）、派遣職員退職人数は、5 名（内、夜勤専従 0 名、夜勤可 0 名）。退職の常勤職員の補充を進めることができず、派遣職員に頼る状況でしたが、その派遣職員も 4 割弱が 2 ヶ月以内に終了となるなど、短期間の入れ替わりで全体の職員体制も安定しない状況でした。夜勤体制においても、夜勤専従の非常勤職員 2 名の入職がありましたが常勤職員の補充ができず、改善が図れていない状況です。

[全体目標]

チームケアを実践し、利用者が安心・安全に生きがいを持って生活できるよう支援する

[実施計画]

< 実施計画 >

1. 入居者の生活習慣や生活様式を把握し、個別ニーズに沿った支援を行う
2. 事故や不安のない（安心・安全・落ち着いた）暮らしを実現する。
3. 部署内及び多職種間の情報共有と連携を徹底し、チームケアを実践する。
4. サービスの平準化と質の向上のため職員研修や勉強会を実施する
5. 地域との連携を密に行い、ボランティアを積極的に受け入れる

[目標達成状況]

1. アセスメントにより個別ニーズの把握に努め、対応（ケア）の徹底に努める。利用者、利用者家族からの生活相談、要望・苦情については迅速を意識して対応した。状態変化や変化するニーズへの対応が課題。
2. 事故・インシデント報告が前年度同様多い状況。中でも知らない間にできた内出血や剥離の報告が多く、予測的介護の実践と共にチームケアを実践していく。
3. リーダー不在時に情報が伝わらないなど情報共有が不十分。また、担当者会議で決定したケアが実施されないことがあり、そのチェックが必要。
4. 毎月、生活研究所加藤先生による研修（法定研修含む）を開催し、職員のスキルアップに努めている。
5. 地域の高校生のボランティアサークルの月 2 回の訪問を受けている。また、10 月と 11 月の 2 か月間であったが地域の方に週 2 回の訪問をして頂いた。

[次年度への課題]

1. ケアプラン立案の段階から現場職員と共に作成し、に基づく対応（ケア）を徹底し、実施のチェック体制を作る。また、変化するニーズをケアプランに位置づけ、対応（ケア）ができる体制を構築する。
2. 情報の共有を徹底する。担当者会議の位置づけをしっかりと認識し効率的に実施する。ケアプランに基づくケアのチェックを実施する。
3. 情報共有を徹底し、チームケアを実践する。
4. 外部講師招聘を継続し、職員のスキルアップを図る。
5. 地域の高校生のボランティア受け入れを継続、慰問団体等と事前協議により計画的に増やす。また、外出行事を実施する。

[部門別目標]

機能訓練

[目標]

日々の生活の中で入居者が残存機能を維持出来るように援助する

[実施計画]

1. 個別に状態の把握に日々努め可能な限り自立支援を行う
 - (1) 自立支援を職員が理解する。(2) ケアプランに位置づける。
2. 余暇活動を充実させ日常生活に機能訓練を取り入れる
 - (1) 午前・午後の活動を日課と業務に位置づける。
 - (2) 個別機能訓練加算が算定できるように体制を整える。
3. 日常生活に即した訓練（起立、歩行等）を行い、残存機能を維持する。
 - (1) 日常生活に即した訓練（生活リハビリ）をケアプランに位置づける。
 - (2) 自主訓練希望者のリハビリプログラムは機能訓練指導員が立てる。
 - (3) 個別機能訓練加算が算定できるように体制を整える。

[年度目標期達成状況]

生活リハビリを個別にケアプランに位置づけ実施することになっているが実施にあたっては徹底されていない現状がある。毎日の余暇活動も、ユニット毎に歌や塗り絵、ゲーム等を予定しているが実施できないことが多い。おやつ作りなどの季節行事は計画通りに実施。ボランティアは毎月、慰問はその都度受け入れている。

[次年度への課題]

生活リハビリをケアプランに位置づけ実施を徹底する。日課にレクや作業療法などの活動を取り入れるための業務体制を再検証する。ボランティアや慰問を積極的かつ計画的に受け入れる。

栄養課

[目標]

1. これまでの食習慣を尊重し、栄養・食事内容の充実を図る
2. 食事の時間が楽しみになって頂けるよう工夫し、食事提供を行う

[実施計画]

1. 摂食意欲が維持できる食事を提供し、経口摂取の維持に努める
 - (1) 医務、ユニット等チームケアの実施

2. 誤嚥や誤飲等の事故の予防

- (1) ソフト食、ミキサー固形食などの嚥下食の提供
- (2) 状態変化による食事形態の変更にもユニット、医務と連携し迅速に対応する。
- (3) 食事変更に伴うカンファレンスへの参加

3. 入居者とのふれあい

- (1) 食事時間に栄養士が食事に立ち会う
- (2) 定期的な嗜好調査の実施
- (3) 食事・おやつレクを開催し食事を通してコミュニケーションを図る

4. 適切な食事提供への研究

- (1) ソフト食、ミキサー固形食などの嚥下食の研究及び提供
- (2) カロリー主体ではなく、栄養価主体のメニューを提供
- (3) 地域にある昔ながらの食事の提供
- (4) 季節感や生活感のある食事の研究

[年度目標期達成状況]

入居者の状態変化に伴う食事形態の対応は、医務、ユニットとの連携により迅速に実施できている。また、形態変更の場合は、管理栄養士が朝昼夕食事時間に状況把握をしている。

[次年度への課題]

嚥下食の研究を継続する。

医 務

[目 標]

1. 入居者の自立支援
2. 感染症の予防

[実施計画]

1. 入居者の健康管理及び自立支援
 - (1) 健康管理 ・定期受診や服薬管理・入居者の日々の全身状態の観察・口腔衛生の指導充実
 - (2) 自立支援 ・生活リハビリテーションの設定
2. ショートステイ入居者の健康管理
 - (1) 利用中の健康管理・相談と薬剤管理。
3. 看護・介護の質の向上
 - (1) 職員への疾病と服薬についての研修の実施。
 - (2) 看取り・褥瘡予防・感染予防等、施設内研修会の実施。
 - (3) 事故予防と事故対応の研修の実施。
4. 職員の健康管理
 - (1) 年 2 回の健康診断の実施。

[年度目標期達成状況]

概ね計画通りに実施できたが、感染対策や看取りなどの研修会の開催が不十分だった。特に看取りについては、今年度より加算を算定しているため、職員全員が要件等を十分に把握し、医師の指示の基、チーム一丸となり対象利用者を支える体制を強化する必要がある。

【次年度への課題】

感染症対策や看取り、身体拘束廃止、服薬、虐待など看護・介護技術向上のための研修会を定期的、計画的に開催する。

短期入所事業

【目 標】

1. 利用者の自立支援と家庭での生活ペースに合わせた援助を行うと共に家族の介護負担軽減と地域に根付いたサービスの提供を行う。
2. 今年度稼働率常時 50%以上を目指す。

【実施計画】

1. 速やかなショートの入入れ
 - (1) 居宅の介護支援専門員等からの依頼に速やかに対応する。
 - (2) 緊急ショートに対応が出来るよう仕組みを検討する。
2. 利用者やその家族からの要望等に対する適切かつ迅速な対応を行う。
3. 利用中の事故防止に努め、事故発生及び緊急時には家族・居宅介護支援事業所への連絡など、迅速に対応は基より、事前に家族等と対応について協議しておく。
4. 利用者の情報を全職種で共有する。
5. 地域の民生員や地域包括、在宅支援等の関係機関及び在宅サービス事業者、病院等との連携を図り、地域ボランティア等も積極的に受け入れる。

【年度目標期達成状況】

目標をはるかに下回り 5.6%の結果。

【次年度への課題】

人員体制整うまで空床利用の短期入所に対応する。